



英国総選挙の実施について

2024年5月23日

5月22日、英国保守党のスナク首相が総選挙を7月4日（木）に実施すると表明したことから、総選挙実施の背景や今後の動向等について、以下のとおり、報告します。

1. 総選挙実施の背景

総選挙は、法律上は2025年1月までに実施することとなっており、世論調査等で最大野党の労働党に大きなリードを許していたことから、政界では、減税政策や景気回復による支持率の回復を期待して、年内に総選挙を実施するとの見方が大勢を占めていた。

こちらは信用金庫とそのお取引先向けとさせて頂いております。

ご覧になりたい場合は、お近くの信用金庫（検索はこちら）までご相談ください。

[続きを読む](#)

しかし、スナク首相は、昨日、想定外に早いタイミングで総選挙の実施を発表した。地元紙によると、同氏は、直近2週間のジェレミー・ハント財務相との議論において、「財政上、更なる減税が難しく、秋まで待っても大きな景気浮揚効果は期待できない」との判断に達し、決断に至ったと言われている。

また、昨日発表された英国CPIが、前年比2.3%と2021年7月以来の水準に戻ったことから、「インフレを正常な状態に戻す」という同氏の最優先公約を果たしたことも発表を後押ししただろう。

同氏と関係が近い閣僚でさえ、昨日11時まで秘密にされていたこともあり、保守党議員の間では、同氏の決定について「勇敢だ」と評価する声がある一方で、「非常識だ」「絶望的で諦めるしかない」と辛辣な反応もある。同氏は、ダウニング街10番の路上で、降りしきる雨でずぶ濡れになりながら、以下の声明を述べた

英国は、保守党のもとで、これまで新型コロナウイルスのパンデミックやロシアによるウクライナ侵攻とそれがもたらした光熱費などの物価高騰を乗り越えた。経済は成長を続け、インフレ率は正常に回復している。保守党は、不安定な世界情勢において明確な計画があり、成果をさらに積み上げていくのか、労働党が示す不安定な社会に戻るのか、国民が選ぶ時が来た。